

9

春子さんの通う中学校の図書委員会では、図書の貸出冊数を調べ、読書週間に発行する図書室だよりの資料にしようと考えています。そこで、図書委員会の1年生委員長の健太さんと2年生委員長の春子さんは、1年生、2年生の4、5月の貸出冊数のデータを集めました。健太さんは、集めたデータについて、下の表にまとめました。

1年生（80人）の貸出冊数

	平均値	中央値	最頻値	最大値	最小値
貸出冊数 (冊)	7.6	7	7	16	1

2年生（100人）の貸出冊数

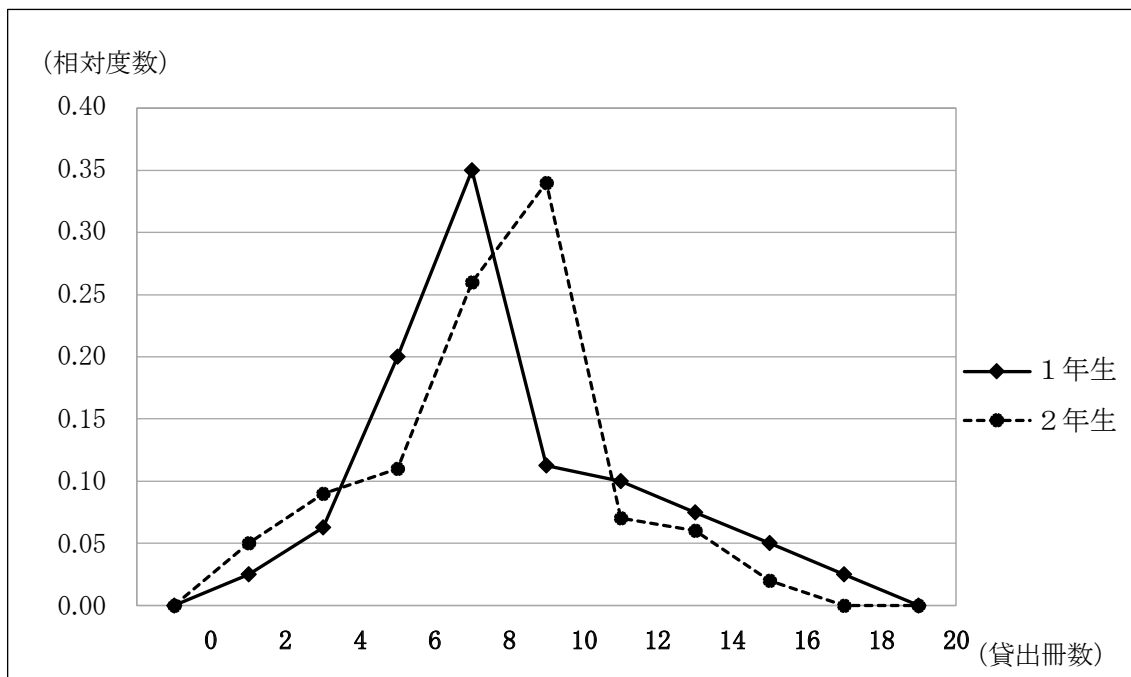
	平均値	中央値	最頻値	最大値	最小値
貸出冊数 (冊)	7.2	7	9	15	0

- (1) 健太さんが作った表から、貸出冊数について、正しく述べているものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

- ア 1年生の80人のうち、貸出冊数が8冊の生徒がもっとも多い。
- イ 2年生の100人のうち、50人の貸出冊数は6冊以下である。
- ウ 貸出冊数の分布の範囲は、1年生、2年生ともに同じである。
- エ 貸出冊数の合計は、2年生より1年生の方が多い。

- (2) 春子さんは、1年生と2年生の人数の合計が違うことから、相対度数を用いて、貸出冊数の分布の傾向を比べようと考えました。そこで、1年生と2年生の貸出冊数の分布を、横軸を貸出冊数、縦軸を相対度数として度数分布多角形（度数折れ線）に表しました。

1年生、2年生の貸出冊数の度数分布多角形（度数折れ線）



2人は、健太さんが作った表と春子さんが作った度数分布多角形（度数折れ線）について、話し合っています。

健太さん「貸出冊数の平均値は、2年生より1年生の方が高いね。だから、
1年生は、2年生と比べて貸出冊数が多い傾向にあると言えるね。」
春子さん「本当にそう言えるのかな。度数分布多角形（度数折れ線）を見ると
1年生の方が2年生より貸出冊数が多い傾向にあるとは言えないんじゃないかな。」

春子さんが作った度数分布多角形（度数折れ線）を見ると、健太さんの考えは適切でないことがわかります。その理由を、春子さんが作った度数分布多角形（度数折れ線）の特徴をもとに説明しなさい。